

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第一中学校	学校No.	66
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 目標 福祉にかかわるさまざまな活動の中で、施設利用者やその運営に携わる方々との交流やボランティア活動を通し、共に歩むことの心構えや自分にできることを考える力を身につける。・ 計画 ボランティア活動、福祉実践教室など。・ 推進体制 有志参加者を募り、各計画を推進する。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none">・ ボランティア福祉体験学習 市内の施設4カ所で有志生徒が活動した。・ 赤い羽根共同募金 市内の商業施設1カ所で有志生徒が活動した。・ 福祉イベントへの参加 市内の福祉イベントの運営に有志生徒が携わった。・ 福祉実践教室 1年生の生徒を対象に体験活動を行った。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ ボランティア活動を通して、障がいのある方々や施設の方々と交流することで、それぞれの方々が生きがいをもって生活している姿を見ることができた。・ 福祉実践教室での体験を通して、相手のことを考え、自分たちにできることを主体的に行動していこうとする心を育むことができた。・ 今後も意欲的により多くの生徒が福祉活動に参加できるよう促していきたい。			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 7 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第二中学校	学校No.	67
-------	-------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目 標

- ア 社会には様々な立場の人がいることを知り、その生き方を学ぶことで自らの生き方を見つめ、心豊かな生活を送ることができるようにする。
- イ 募金活動やエコキャップ回収活動に積極的に取り組ませることで、社会のため自分ができることに気づかせる。

(2) 計 画

- ア 福祉実践教室を通して、ユニバーサルデザインの視点を学び、誰もが過ごしやすい社会をつくるために自分にできることを見つけられるようにする。
- イ 募金活動やエコキャップ回収活動を活発にするためにポスターを作成したり、呼びかけを行ったりする機会を設定する。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- (1) 福祉実践教室…………… 11月25日（火）
- (2) 赤い羽根の募金（校内）…………… 11月25日（火）～11月27日（木）
- (3) かしの木フェスティバルボランティア…………… 11月8日（土）
- (4) アルミ缶・エコキャップ回収活動…………… 通年

3 福祉教育の成果と今後の課題

- ・福祉実践教室を通して、様々な人との共生社会の実現に向けて、自分のできることを発見したり、確かめたりすることができた。
- ・多くの生徒が、かしの木フェスティバルのボランティアに参加した。
- ・募金活動やエコキャップ回収活動を通して、「共に生きる」という気持ちを高めることができた。また、自分にできることを考えるよい機会となった。
- ・現在は、委員会や特定の学年での実践に留まっているため、学校全体で継続的に実践できるように、生徒の実態に合わせた福祉教育に取り組んでいきたい。



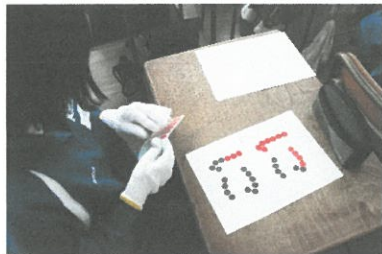
2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第三中学校	学校No.	68
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>「身近な生活で周りに対する社会貢献」「地域の中でボランティア活動や募金活動などで貢献しよう」ということで取り組むことにした。</p> <p>福祉委員会、ボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画・実践した。</p> <p>○行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。</p> <p>○学級、学校等で自分から人の喜ぶことを行い、福祉に対する意識向上を図る。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>4月 前年度からの係の引継ぎを行った。</p> <p>5月 小原町内会春の大掃除ボランティアに参加 7名 地域清掃活動として、1・2年生が学校周辺を、3年生が尾西緑道や尾西グラウンド、小信児童公園を清掃 福祉実践活動を1年生が車いす・手話・点字・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験に分かれて体験をする。</p> <p>開明連区体育祭中学生ボランティア 41名</p> <p>6月 福祉委員があいさつ運動もかねて行いユニセフ募金への協力（3日間）</p> <p>7月 小信っ子クラブふれあい祭に参加 23名 青少年等ボランティア福祉体験学習に参加 ・社会福祉法人檜の木福祉会かしの木の里 2名 ・泰玄会老人福祉施設 2名 ・特別養護老人ホーム 奥町 1名 ・風の苑マグノリア 2名</p> <p>8月 開明連区夏祭りボランティアに参加 60名 おもちゃ図書館「おもちゃの城」ボランティアに参加 2名</p> <p>9月 環境委員の協力のもと、アルミ缶回収を行った。（3日間）</p> <p>10月 「赤い羽根街頭募金活動」のボランティアに参加 3名</p> <p>11月 スポーツフェスタ中学生ボランティアに参加 21名 開明公民館まつりボランティアに参加 8名 かしの木フェスティバルボランティアに参加 1名 福祉委員があいさつ運動もかねて行い赤い羽根募金への協力（3日間）</p> <p>12月 「年の瀬ウオーキング」ボランティアに参加 16名</p> <p>1月 環境委員の協力のもと、アルミ缶回収を行った。（3日間）</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度は昨年度と同程度のボランティア募集を行い、多くの生徒が福祉活動に積極的に参加することができてよかった。学校行事とボランティア募集と被ると、参加人数が減ることがあったため、募集期間にゆとりをもたせるなど、参加への意欲を向上させていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立木曾川中学校	学校 No.	69
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
<p>本校では、「思考・実行・協力」（三考）の校訓のもと、ボランティア活動を位置づけ、福祉教育を計画的に進めている。社会福祉に関する実践的な学習の機会を通して、福祉への理解と関心を高め、ともに生きる姿勢を育てるとともに実践力の向上を図り、豊かな心の育成に取り組んでいる。</p>			
2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
（1）社会福祉活動に対する関心を深め、意識を高める活動			
① 福祉実践教室			
<p>11月19日（水）、本校にて、1年生全員が手話・点字・要約筆記・車いす体験・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症理解・発達障害理解のいずれかの活動に参加した。講師の方の説明を真剣に聞き、積極的に体験活動に取り組むことができた。また、活動後、講師の方に生徒から自発的に質問をしており、体験を生活に生かそうという意欲の高まりが感じられた。</p>			
			
② 福祉に関するレポート作成			
<p>福祉実践教室での体験を踏まえ、1年生の総合的な学習の時間の中で、福祉に関するレポートを作成した。体験談に加え、ユニバーサルデザインや高齢者・障がい者への支援策など、自ら調べた内容を織り交ぜてまとめた。作成したレポートを全学級廊下に掲示することで、1年生全体に福祉にかかわる啓発をするとともに、保護者会の時期に掲示することから、保護者にも啓発することができた。</p>			
③ 人権週間の取り組み			
<p>全国的な人権週間に合わせて、本校でも「人権週間」を設け、さまざまな取り組みを通して人権について考えた。校長による人権講話、生徒会による人権に関する作文の朗読やよいこと見つけの取り組み、人権標語の募集などの活動を通して、人権に対する関心を高めた。</p>			
（2）地域との連携を図る活動			
<p>今年度は夏休み福祉体験学習、一豊まつり、いちのみやボランティアフェスティバルに参加した。生徒はそれぞれの活動に主体的に参加することで、福祉に対する意識を高めることができた。</p>			
3. 福祉 教育の成果と今後の課題			
<p>主に福祉実践教室やレポート作成を通して、障がい者や高齢者への理解を深めるとともに、多角的な視点を養うことができた。その結果、福祉への関心が高まり、地域のボランティア活動に自発的・継続的に参加する生徒が増加するなど、奉仕の精神の伸長が見られた。</p>			
<p>今後も多様なボランティア活動の機会を提示し、学校生活や地域に根差した日常的なボランティア活動への取り組みを継続していきたい。</p>			

様式 4

令和 7 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名 愛知真和学園 大成中学校

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校の教育理念でもある「報恩感謝」を様々な福祉活動を通じて体得することを目標にしています。

また在学中だけでなく卒業後の今後の人生においてもいろいろな場面で役立ててほしいと考えています。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・エコキャップ回収運動（文化祭で集計結果発表）
- ・レモネードスタンド活動（文化祭内）
- ・赤い羽根募金活動参加
- ・子ども食堂 参加
- ・校外周辺清掃活動
- ・校内美化運動

3 福祉教育の成果と今後の課題

成果

様々な社会活動を通じて生徒の意識向上・心構えに好影響を与えている
また「エコキャップ回収活動」「レモネードスタンド活動」等は複数年間にわたり行い、学校の伝統として認知されつつある。

ただ長年継続していたヒマワリの種による「東日本大震災復興プロジェクト」が近年の孟夏によりすぐに枯れてしまい、断念したのは残念な結果でした。

しかし子ども食堂への参加をはじめると新しい活動も始めることができた。

今後の課題

生徒主体の自主的な活動として定着した一方で今後も新しい企画を検討するなど形骸的なものにならないよう注意深く見守りたい。

レモネードスタンド活動とは

レモネードスタンド活動とはどのような活動でしょう？

小児がん支援のレモネードスタンドが始まったきっかけや、小児がんとはどのようなものなのか
小児・AYA世代のがんの現状や、どうして支援が必要なのか調べてみましょう。

がんと闘う子どもたちのために、レモネードスタンドの開催を通して、多くの人に伝えてください。
その行動が、社会に広がる大きな力になります。

※AYA 世代のAYA（アヤ）とは、Adolescent and Young Adult（思春期と若年成人）の略であり、一般的に15歳～39歳を指します。

- 1 小児がん支援のレモネードスタンド
- 2 小児・AYA世代のがん支援が必要な理由
- 3 集まった寄付は小児・AYA世代のがん患者支援に活用

【1】小児がん支援のレモネードスタンド

がんと闘うアメリカの少女が、同じ病気と闘う友達との別れを経験していく中で「レモネードスタンドでお金を集めて、がんと闘う子供たちを助ける治療法を見つけてもらおう！」と自宅の庭でレモネードスタンドを開き、集まったお金を病院へ寄付することを始めました。アメリカでは子供たちのお小遣い稼ぎや社会勉強のためにレモネードスタンドを開くことが夏の風物詩となっていました。少女が始めた活動は、メディアに取り上げられ全米に広がり、少女が亡くなった今もその意思は引き継がれています。現在、日本でも英語の学校教材として取り上げられるなど「レモネードスタンド」という活動が徐々に広まってきています。学校の文化祭や地域のお祭り、自宅のガレージ、企業のイベントなどでレモネードスタンドを開催し、集まった寄付は小児がん支援に活用されています。

【2】小児・AYA世代のがん支援が必要な理由

小児・AYA世代のがんは患者数が少ない上に希少ながんが多く存在します。治療研究や新薬開発を進めるには膨大な費用がかかりますが、患者数の少ない小児がんは研究開発費の回収が難しく、治験（お薬の安全性や有効性を調べる試験）を始めても患者数が少ないため、結果が分かるまで長い期間がかかってしまいます。そのため研究開発が遅れている状況にあります。徐々に治療環境の整備などが進んでいますが、まだ十分とはいえません。

さらに、がんを克服しても成長の違いや、不妊など晩期合併症を抱えている人も多く、長期的なフォローアップが必要です。就学や就労、恋愛、結婚など社会で自立するための支援も必要としており、大人のがんと異なる課題があります。

AYA 世代のAYA（アヤ）とは、Adolescent and Young Adult（思春期と若年成人）の略であり、一般的に15歳～39歳を指します。AYA 世代のがん患者は、治療中やその後の生活の中で、就学、就労、恋愛、結婚、出産など人生のターニングポイントとなる様々な出来事と向き合う機会が想定され、高齢のがん患者とは異なるAYA 世代特有の問題があると考えられています。

【3】集まった寄付は小児・AYA世代のがん患者支援に活用

レモネードスタンドジャパンは、認定NPO法人キャンサーネットジャパンが運営しており、全国各地で開催するレモネードスタンドを応援・支援しています。開催時に集められた募金は、小児がん研究に役立ててもらえるよう小児がんの研究団体に助成を行っている他、22歳以下のがん患者さんへ新古ウィッグプレゼント企画の運営などを行っています。

*詳しくは、寄付の使われ方をご覧ください。

[寄付の使われ方](#)